



あしべつ

市議会だより

2019年
2月1日
No.10

芦別市議会ホームページ <http://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/gikaijimu/gikai.html>

11月9日、芦別高校1年生を招いて初めての試みとなる「芦高生と市議会議員とのふるさと懇談会」が市議会本会議場で開催されました。(詳細は2ページに掲載)



議長 動静

芦別市議会議員 日沼 昇光

昨年11月2日、旭川市で開催された「JR北海道の事業範囲の見直しに係る地域合同説明会」に萩原市長と共に出席しました。会議では、JR北海道の小山副社長から、国からの支援を毎年200億円と仮定した2023年度までの5年間の収支見通しの説明や、本市の根室本線を含めた線区別事業計画(アクションプラン)策定に向けた沿線自治体等関係者の協力についての要請があったところです。

また、昨年12月24日に札幌市で開催された「JR北海道の事業範囲見直しに係る関係者会議」の中で、国土交通省の蒲生鉄道局長から、路線維持には自治体の支援が必要であることや、国がJR北海道の支援を2021年度以降も継続するためには、国民全体の理解を得た上で法律改正が必要との考えが示されました。そして、JR北海道の島田社長は、今年の仕事始めの挨拶の中でも、経営再生に強い意欲をにじませ、懸案の赤字路線見直し問題については、沿線自治体との協議を着実に進める姿勢を示していました。

しかしながら、道内自治体の厳しい財政状況の中で、現行制度のもとで支援を行うことは現実的ではなく、国、JR北海道、自治体の三者それぞれの考えが交わることがない現状にあって、その課題解決へ向けての歩みを一歩でも前へ進めるためには、関係者が一体となり利用促進等を図る取り組みを進めながら地域の理解が得られるよう、徹底して議論を尽くすことの必要性を痛感しているところです。

主な内容

- ◎特集 芦高生と市議会議員とのふるさと懇談会 2ページ
- ◎12月定例会一般質問…………… 2～6ページ
- ◎12月定例会の議決結果…………… 7ページ
- ◎各団体との懇談会…………… 8ページ

芦高生と市議会議員とのふるさと懇談会

ふるさと芦別のまちづくり
高校生から多くの意見や提言

平成30年11月9日、本会議場において芦別高校1年生86名と市議会議員との「ふるさと懇談会」を開催しました。地元の高校生に議会と市政に対して関心を持ってもらえるよう議会改革推進委員会が企画し実施しました。

生徒は、議員と事務局職員の家内で委員会室、議事堂などを見学した後、本会議場において3クラスの代表12名の生徒が市議会議員に質問・

議長が進行役として議長を務め、芦別市の自慢できることや、期待する将来像、街にどのようなものがあるか、といったテーマとして、本会議の一般質問ながらの質問・提言がなされました。

生徒からは「お米やガタタンがおいしい」「自然が豊か」「星がきれい」など、芦別市を再認識する場面も披露。また「マラソンによるまちづくり」「通学に使うバスについて」「イベントの増加について」など再質問をする場面もあり、SNSなどを使った周知方法、イベントの興味づけなどの提言もありました。

要望・提言をするかたちで懇談会を行いました。

生徒は議員席と傍聴席に、市議会議員は理事者席に座り、日沼議長が不在のため松井副

議長は、その後、小川議会改革委員長より、アンケート方式でいくつかの質問がなされ、多くの生徒の皆さんが「良い経験ができました」と評価していただきました。また、「今回のテーマに関してクラスの中で活発に議論をされたことが伝わりました」と講評しました。

最後に生徒を代表して松川幸久君

より「議場に入ることも、議員の方々とお話して僕たちの考えをお伝えすることもでき、とても貴重な時間となりました。市民としてしっかりと

自覚を持ち、街づくりの力になれたらいいと思います」と挨拶がなされ閉会しました。

12月定例会一般質問

12月定例会市議会では、一般質問が行われ、8名が立ちました。それぞれ要旨を掲載しています。なお、会議録は図書館、市内各コミュニティセンターで閲覧できるほか、ホームページに掲載しています。



公明党 吉田 博子 議員

ふるさと納税について

質問

一人で暮らす家族の安否を定期的に確認できる「みまもりサービス」をふるさと納税返礼品に追加できないか伺う。

答弁

芦別郵便局と協議を進め、地域における連携協定を締結している日本郵便の「みまもりサービス」をふるさと納税の返礼品として早期に取り入れていきたいと考えています。

防災対策について

質問

地域防災計画に外国人観光客の情報伝達に関する

整備がされているのか伺う。

答弁

地域防災計画に外国人観光客への情報伝達は掲載していませんが、必要に応じて外国語ハンドブックの作成を検討していきます。

質問

災害時における宿泊業者との協定はできているのか伺う。

答弁

災害時に関する協定はしていませんが、避難者等の入浴施設の提供などが考えられることから、今後、関係者と協議をしていきます。

質問

外国人観光客の災害時団体との連携について伺う。

答弁

現在、連携は取られていませんが、今後、関係機関と連携していきます。





日本共産党
松井 邦男 議員

市民生活支援について

質問

本格的な冬の生活に不可欠な灯油価格は高止まりし、低所得者の生活を直撃している。生活支援としての福祉灯油支給について前向きに検討をすべきであり、考えを伺う。

答弁

灯油価格は12月に入り値下がり傾向にあり、過去において道の地域づくり総合交付金の制度を活用して、冬季生活支援事業を実施してきたが、今後の価格変動に注視していきます。

質問

市立病院の深夜救急治療後の時間帯には、タクシーは営業しておらず、乗用車のない方には自宅へ戻る手段がないとして、何らかの対策を求める市民の声が聞かれる。市として、市民の帰宅交通手段の確保を応援するために、タクシー会社と対策の検討をすべきと思うが、考えを伺う。

答弁

午前2時から午前7時までの救急車による救急

搬送件数は、平成29年度は44件、30年度は12月6日までは24件ありました。タクシーがなくて不便との声は聞いており、今後、病院に限らず地域交通確保の観点から、市、市立病院とタクシー会社とで協議したいと考えています。

農業行政について

質問

市内の振興作物栽培農家における人手不足が深刻な事態にあるとして、毎年市農業委員会は、建議書で市長に何らかの対策を求めている。市の現状把握と確保対策を伺う。

答弁

振興作物の食用馬鈴薯や南瓜、食用百合根の作付面積は30年度は50・7畝、栽培農家は25戸、64人。このうち65歳以上の高齢者は14戸で、後継者が確定しているのは1戸となっています。各生産組合と旭川などの人材派遣会社などによる「農業サポーター人材バンク」に依頼して人手の確保に努めているところです。

学校教育行政について

質問

小中学生の通学カバンは、学年が上がるたびに重くなり、日によっては約6kgにもなると聞く。文部科学省は通知で、

負担軽減の措置を講じることを求めているが、教育現場での対応を伺う。

答弁

カバンの重さを量ったことはありませんが、教科書や教材の種類が増え、重くなっていることは認識しています。子どもたちの成長に与える影響を懸念しており、文部科学省通知を学校に配布して、携行品が過重とならないよ



市民連合議員団
小川 政憲 議員

行財政改革の推進方針について

質問

行政改革推進委員会の議論の経過と今後の委員会の進め方について伺う。

答弁

本委員会は財政的見地からではなく、さまざまな事務事業について政策的観点から市民目線で検討・検証し、政策の在り方や手法等の見直しについて審議のうえ、改革プランに肉づけをし、補強・補完するための意見をいただくために設置したものであり、意見の出やすいワークショップ形式によるグループ討議を主体としていま

う適切な配慮を求めています。

質問

教職員の過酷な長時間労働の実態が明るみになっている。ブラック職場との指摘もあり、人権問題だ。教科外業務の抜本的見直しと教員の大幅増員が求められているが、認識と対応を伺う。(紙面の都合で答弁は省略します)

す。昨年度は5回、本年度は4回開催し、定めた検討テーマ(6テーマ)について議論していただきました。

(再質問への答弁 数値的目標等を強く示すことにより議論が進まなくなることを避けるようとしています)

質問

市立芦別病院事業会計の収支見直しにおいて、今後、経営支援分を1億円とすることにより、平成32年度中にも経営健全化計画を策定することになるが、そのことが本当に抜本の見直しにつながるのか伺う。

答弁

これまでは財政健全化法による資金不足比率が20%を超えない範囲で毎年発生する赤字額の内2億3億円の経営支援を受けてきましたが、今後は資金不足比率が20%を超えたとしても、資金ショートさせない範囲の助成と

する方針に変更されたので（市の方針）、平成31年度から平成34年度までの4年間は毎年1億円を限度と見込むことにより、平成31年度にも資金不足比率が20%を超え、経営健全化計画を国に提出する可能性があることから、「外部委員による病院の在り方検討会」や総務省の「経営アドバイザー」による経営診断」により、今後の経営の有り方を判断し、経営の健全化に努める必要があります。計画は当然実行性のあるものとし、抜本的見直しにつなげていきます。

質問

財源不足を補うための行財政改革を行うにあたり、歳入増のために市民に対して負担を求める考えはないのか伺う。

答弁

人口減少と少子高齢化の進展に伴う地域経済の縮小など、社会経済環境を考慮すると、過去に行った固定資産税の超過税率の適用や使用料・手数料の著しい値上げは現状の市民生活の実態から受け入れられないものと認識しており、他市との均衡を重視し、消費税の引き上げや国の制度改正などによる場合を除き、市税や使用料・手数料の値上げにより市民負担を強化する考えは持ち合わせていません。



創政会 池田 勝利 議員

財政状況について

質問

平成19年に財政健全化計画を立てて市民負担を求めた当時と、現在を比べて財政的にどちらが厳しい状況にあるか伺う。

答弁

平成19年当時よりも危機的状況にありますが、市民に負担を求めることは困難であるため、各種施策の見直しや公共施設管理運営委託化など、持続可能な財政構造の確立に努めていきます。

質問

市職員の給与削減も視野に入れていくようであるが、総人件費の抑制はどうしても避けられないものと思う。職員給与については理事者の専権事項であり、議会があれこれ申し上げることは控えるべきと思うが考えを伺う。

答弁

職員給与については削減する考えは持ち合わせておりませんが、市立病院の経営悪化等の急激な財政逼迫に対応しなければ危機を乗り切れないと判断

し、断腸の思いで給与の削減に踏み込まざるを得ないとの決断に至りました。もとより、職員給与については理事者の専権事項であると思っておりますが、当然職員労働組合との交渉の末、決まった段階で議会へ条例案を提案し、議決をいただくことになると思っています。



新星クラブ 大橋 二郎 議員

芦別市における「炭鉄港」の取り組みについて

質問

産業遺産を活用した「炭鉄港」の取り組みに、どのように関わっていくのか伺う。

答弁

1月に日本遺産認定申請が予定される「炭鉄港」については、認定後の計画において空知・室蘭・小樽の地域間連携を加速させ、観光客誘致のための情報発信はじめ来訪者が炭鉱遺産を体感できる受入環境の整備や、各種イベントとの連携による地域独自の食文化体験の取り組みなどが盛り込まれており、本市としても関係部署・団体

と連携し可能な限り関わっていきたいと考えています。

提案

芦別には旧頼城小学校がある。以前大学設置のために学校法人に無償譲渡したと聞いているが、現在は全く利用されていない。是非ともこの機会に貴重な煉瓦造りの校舎と体育館を炭鉱遺産と位置づけ、見学などに活用していただきたい。

外国人労働者の受け入れについて

質問

現在までの状況と実績、今後の市内事業者の動向について伺う。

答弁

現在市内製造業2社で技能実習生として13名を受け入れており、それぞれ17年間で25年間の受け入れ実績があり、今後においてもこの2社が継続するほか、来年度建設業1社が計画しています。他の製造業2社も検討していると同っています。

要望

これから増加するであろう外国人労働者に対して、企業向けのガイドラインを作成し、市民との交流など既存の取り組みを更に充実させ、積極的に受入体制を整えていただきたい。労働人口増により市税収入や消費拡大が見込まれ、更に交付税算定の基になる国

勢調査人口が増えることにより、歳入増加の大きな力となると考える。

災害対策について

質問

今回の停電で起きた問題点の検証と対応・対策について伺う。

答弁

市内の関係機関・団体・事業所の一部に対し調査を行い、1月中を目途に検証会議を開催します。また、11月から公式のツイッターとラインを開始し情報発信をしています。今後は検証会議を踏まえ、備蓄品の整備をしていきたいと考えます。



政 風 会
大鎌 光純 議員

**芦別市における
落ち葉対策について**

質問

市の緑化全体の保全啓発などをするとときに落ち葉拾いも合わせて行うべきではないか伺う。

答弁

より身近な緑化で、潤いのある豊かな環境づく

りに資する公園の樹木や街路樹などは、森林とともに本市にとって重要な緑資源でありますので、森林の大切やささまざまな機能について啓発する「元氣森森まつり」などの機会を捉えて、公園の樹木や街路樹についてもその機能や役割を市民に啓発するとともに、併せて落ち葉拾いの啓発も行っていきたいと考えています。

質問

落ち葉を捨てに行ける堆肥場を作ってみてはどうか伺う。

答弁

落ち葉を堆肥として活用できるようにするためには、まず、発酵作業として収集された落ち葉に米ぬか、水を混ぜ合わせ、約60日間そのまま寝かして発酵させたのち、「切り返し」という攪拌作業を、水分を調整しながら約20日に1回継続して行い、落ち葉が原型をとどめなくなるまでの約半年間繰り返し行うといった管理が必要となります。また、このような管理に加えて、堆肥場を設置するにあたっては、収集された落ち葉を保管するスペースや堆肥を製造するスペース、完成した堆肥を保管するスペースが必要であることから、落ち葉の堆肥場を設けている例は全国でも極めて少なく、設置費用や管理運

営に係る経費等を考慮すると、現状において堆肥場を設置することは困難であると考えています。

質問

春に行っている親子クリーン作戦を秋にも落ち葉の多い時期に、落ち葉に限定して行ってみてはどうか伺う。

答弁

春に行っている親子クリーン作戦は、芦別市青少年健全育成連絡協議会が主催し、子ども達の社会奉仕の精神を地域の



政 風 会
北村 真 議員

市立芦別病院の経営問題について

質問

市立芦別病院の損益分岐点について伺う。

答弁

固定費をどこまで削減できるかが医業収支改善のポイントの一つであると認識していますが、その手順が複雑であることから、損益分岐点の算出はしていません。経営分析には必要なものであると考え、今後、調査研究していきます。

大人とともに活動することにより育むとともに、青少年の社会参加を促し、青少年の健全な育成を目指すことを目的に芦別市及び教育委員会が共催、町内会連合会が後援となり実施しているところです。ご提言のありました秋にも落ち葉に限定して実施することにつきましては、芦別市青少年健全育成連絡協議会等の関係機関・団体と協議し、検討していきたいと考えています。

質問

市立芦別病院における3C分析(※注1)やSWOT分析(※注2)などの経営分析を行った実績について伺う。

答弁

市立病院において3C分析やSWOT分析など

(注1) 自社、競合、顧客のそれぞれを調査・研究し、戦略を考える手法。Customer(市場・顧客)、Competitor(競合)、Company(自社)の頭文字をとったもの。

(注2) 組織を「強み(Strength)」、「弱み(Weakness)」、「機会(Opportunity)」、「脅威(Threat)」の四つの軸から評価する手法のこと。企業戦略の立案時に用いられる。

の手法による経営分析を行った実績はありません。経営分析を行っている他の公立病院があることは承知していますので、ご提案いただいたS W O T 分析を「経営改善院内検討委員会」において、検討、分析を行う手法として活用させていただきたいと考えます。

質問

市立芦別病院における診療科ごとの収支について伺う。

答弁

診療科ごとの収益については毎月集計してはいますが、それぞれの診療科の費用の算出にあたりましては科別原価計算を行う必要があり、共通する経費をどのように配分するのか、特に入院病棟が複数の診療科による混合病棟であるため、その作業は容易ではないことから、小規模公立病院ではあまり採用されていないと認識しています。しかしながら、病院経営を考えるとうえで必要なものであると考えますので、公立病院を統括する全国自治体病院協議会とも相談しながら調査・研究してまいります。

質問

現状の3億円近くの基準外繰入金を平成31年度から1億円の緊急財政支援にすることが可能になるロジック（論理）について伺う。

答弁

今までは、財政健全化法による資金不足比率のボーダーラインである20%を超えない範囲で、一般会計から毎年2億円から3億円経営支援を受けていましたが、今後は資金不足比率が20%を超えたとしても資金のショートを生じさせない範囲とする方針として、経営支援の額を1億円と定めたとありますが、今後、「市立病院のあり方検討会」の答申や総務省の「経営アドバイザー」による経営診断の結果に基づき、抜本的な見直しを図ってまいりたいと考えています。



政 風 会
樋坂 直紀 議員

芦別市の防災について

質問

A E D を設置している公共施設の数とそのうち、24時間開設している施設の数について伺う。

答弁

A E D を設置している施設は、総合体育館、道の駅、子どもセンター、各小学校な

ど合計12施設で、そのうち24時間開設しているのは、芦別温泉タワーイトホテル1か所のみとなっています。

質問

芦別温泉スターライトホテルと星遊館にそれぞれ設置されているA E D のうち、1台を移設することについて伺う。

答弁

ホテルのフロントに備えた1台については、2階の各宴会場利用客及び3階から6階までの宿泊客への救急対応を想定しているほか、陶芸センターやパークゴルフ場など健民センター園地内の緊急事態にも対応するため、第一報がもたらされることが多いフロントに設置しているところです。星遊館につきましては、健民センターエリア内で最も利用客が多く、さらに心停止のリスクが高いとされている体育館も隣接していることから設置しているものであり、万一の事態に対応するためにも現段階では移設することは考えておりません。

質問

頼城多目的研修センターに設置してあるA E D を、警察官が24時間駐在している頼城駐在所に移動させることはできないのか伺う。

答弁

頼城多目的研修センターのA E D は、旧芦別市

青少年会館に設置してあったものを地域町内会の要望を受け、引き続き設置していることで決定していることから、移設は考えていないところです。

質問

公共施設にあるA E D を、芦別警察署の駐在所に配置する考えについて伺う。

答弁

一般財団法人日本救急医療財団のA E D の適正配置に関するガイドラインをもとに、心停止の発生が比較的多いスポーツ関連施設や、規模の大きな公共施設に配置しており、公共施設のA E D を駐在所へ移設する考えは持ち合わせていません。

質問

防災ハンドブックや防災ガイドブックに外国語をつけることについて伺う。

答弁

現在ある防災ハンドブックや防災ガイドブックは、掲載情報が多いことから外国語をつけることは考えていませんが、今後外国人観光客や外国人労働者の動向を見ながら、必要に応じて簡易な内容の外国語防災ハンドブックの作成を検討していきたいと考えています。

12月定例会の議決結果・議会の動き

12月13日、平成30年第6回市議会（定例会）が招集され、会期を21日までの9日間と定めて平成30年度補正予算、条例制定・改正・廃止、公の施設の指定管理者の指定などが審議されました。

■全員賛成の議案

| 議案 | 件名 | 結果 | 議案 | 件名 | 結果 |
|------|----------------------------|------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 補正予算 | 平成30年度一般会計（第6号） | 原案可決 | 条例廃止 | 芦別市融雪施設設置資金助成条例を廃止する条例 | 原案可決 |
| | 平成30年度後期高齢者医療特別会計（第2号） | 原案可決 | | その他 | 公の施設の指定管理者の指定について（国設芦別スキー場） |
| | 平成30年度市立芦別病院事業会計（第1号） | 原案可決 | 公の施設の指定管理者の指定について（陶芸センター） | | 原案可決 |
| | 平成30年度水道事業会計（第1号） | 原案可決 | 公の施設の指定管理者の指定について（緑地等管理中央センター） | | 原案可決 |
| 条例改正 | 芦別市基金条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | 意見書 | 公の施設の指定管理者の指定について（オートキャンプ場） | 原案可決 |
| | 芦別市オートキャンプ場条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | | 消費税10%への増税中止を求める意見書 | 原案可決 |
| | 芦別市在宅福祉サービス条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | 後期高齢者の窓口2割負担への引き上げに反対する意見書 | 原案可決 | |
| | 芦別市農業振興条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | 認知症施策の推進を求める意見書 | 原案可決 | |
| | 芦別市農業担い手育成条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | | | |
| | 芦別市企業振興事業補助金交付条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | | | |
| | 芦別市職員給与条例等の一部を改正する条例 | 原案可決 | | | |
| | | | | | |

■賛否が分かれた議案

○：賛成、×：反対、△：退席、欠：欠席、／：採決なし、議：議長

| 議案 | 件名 | 結果 | 大橋 | 瀧 | 石川 | 大鎌 | 北村 | 樋坂 | 松井 | 吉田 | 小川 | 池田 | 田森 | 日沼 |
|------|----------------------------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 二朗 | 仁美 | 洋一 | 光純 | 真 | 直紀 | 邦男 | 博子 | 政憲 | 勝利 | 良隆 | 昇光 |
| 補正予算 | 平成30年度一般会計（第5号） | 原案可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | ○ | 議 |
| | 平成30年度国民健康保険特別会計（第3号） | 原案可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | 議 |
| 意見書 | Society5.0時代に向けた学校教育環境の整備を求める意見書 | 原案可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議 |

■閉会中継続審査となった議案

○芦別市空家等対策条例制定案

議会の動き

平成30年11月上旬～31年1月下旬

【11月】

- 2日 JR北海道の事業範囲の見直しに係る地域合同説明会（旭川市）
- 5日 社会福祉協議会との懇談会
- 9日 芦高生と市議会議員とのふるさと懇談会
- 12日～13日 総務常任委員会（所管事務調査）
- 14日～15日 社会産業常任委員会（所管事務調査）
- 16日 ㈱芦別振興公社経営問題調査特別委員会、議会運営委員会
- 19日 道道美唄富良野線整備促進期成会総会及び要望活動（札幌市）

- 20日 市議会全員協議会
- 26日 空知教育センター組合議会（滝川市）、中空知衛生施設組合議会（滝川市）
- 26日～27日 全国市議会議長会地方財政委員会（東京都）
- 28日 道道芦別美瑛線整備促進期成会総会・要望活動（美瑛町ほか）
- 29日 市議会全員協議会
- 30日 中空知広域市町村圏組合議会（滝川市）、石狩川流域下水道組合議会（滝川市）

【12月】

- 4日 滝川地区広域消防事務組合議会（滝川市）
- 6日 公営住宅すみれ団地建替工事完成見学会、正副委員長・正副議会運営委員長会議、議員会派代

- 表者会議、議会運営委員会、商工会議所との市政懇談会
- 13日～21日 第6回市議会（定例会）
- 13日 議会運営委員会
- 18日 議員会派代表者会議、議会運営委員会、議会改革特別委員会
- 19日 総務常任委員会
- 20日 社会産業常任委員会
- 21日 議員会派代表者会議、議会運営委員会、広報広聴委員会

【1月】

- 17日 総務常任委員会、広報広聴委員会
- 18日 社会産業常任委員会
- 21日 広報広聴委員会
- 31日～2月1日 全国市議会議長会地方財政委員会（東京都）

社会福祉協議会、商工会議所と 意見交換を踏まえ政策提言へ

平成30年11月5日に社会福祉法人
芦別社会福祉協議会と、12月6日に
は芦別商工会議所と懇談会が開催さ
れました。

芦別社会福祉協議会との懇談会は
本年度から初めて開催することな
り、はじめに社会福祉協議会の組織
についてご説明をいただいた後、事
業区分や芦別市社会福祉協議会が
行っている事業、予算の概要につい
てご説明いただきました。続いて芦
別市の地域福祉の推進について懇談
を行い、複数の議員から市民福祉向
上について、どのような取り組みを



初めて開催した社会福祉協議会との懇談会
＝平成30年11月5日、総合福祉センター

行っているかなどの質問があり、丁寧な回答と説明をいただきました。

今回、初めての開催ということでも基本的な内容の説明などをいただくかたちとなりましたが、これからも定期的に開催し、より深い理解の上で懇談を行うことで、地域福祉の向上に向けてさまざまな提案を行うなど、情報共有を図っていきたくと考えています。

次に、芦別商工会議所との政策懇談会では、坂田会頭をはじめ、吉井

副会頭及び各常議員の皆様から市の理事者と私どもに対しまして、平成31年度芦別市施策及び予算編成に向けた要望書が提出されました。その後の懇談会においては、行政、商工会議所、議会の立場で芦別市が抱える諸課題の解決に向けて意見交換をさせていただきました。

今回、商工業の振興を含めた観光行政や行財政改革について、民間目線でさまざまな角度からご提案をいただきましたので、要望内容を精査したうえで、我々としても芦別市の産業振興の後押しにつながる政策提案を行ってまいりたいと考えています。
(北村 真)

3月定例会市議会のお知らせ

- 会期 3月7日(木)～25日(月)
- 日程
 - 7日(木) 本会議(議案の提案)
 - 11日(月) 本会議(代表質問)
 - 12日(火) 本会議(代表・一般質問)
 - 13日(水)・14日(木) 常任委員会
 - 15日(金)・18日(月)・19日(火)・20日(水)・22日(金) 予算審査特別委員会
 - 25日(月)本会議(議案の議決)
- 開会時間 いずれも午前10時から
- ※日程・時間は、議会運営上変更する場合があります

編集後記

30年間続いた平成の元号は、5月で新しい元号に代わることになりました。私はもっぱら西暦主義者ですが、30年の間、いろいろありましたが平成のはじめの頃、三井芦別炭鉱の閉山で「炭鉱から観光へ」と市政の方向を転換し、乗り出した赤毛のアンをテーマとしたカナディアンワールドも折からのバブルがはじけて破産。今は負の遺産として市政に重くのしかかっています。

この問題に最初から関わっていた議員の一人として、特別な思いが。新しい元号を目前にして、市は現在、市立病院経営も含め財政収支が立ちゆかないとして、市民や市職員にも厳しい負担を求める行財政改革の進め方について、議会では事態を深刻に受けとめ、身を削ることも含めて真剣な論議を重ねています。

議会として、厳しさを共有しつつ、市民が元気で住み続けられるまちづくりを応援できる市政のために何ができるか、市民からの負託に応えていく役割の発揮が今強く求められていると痛感するものです。
(松井)

芦別市議会広報広聴委員会

- 委員長 小川政憲
- 副委員長 石川洋一
- 委員 池田勝利、大橋一朗、北村真、松井邦男、吉田博子